TTC 提案山行実施記録表　　2014年8月6日　報告者:　坂本　達治（1/4）

山行名	飯豊山(日本 100 名山)　　(2105.1m/福島県・新潟県・山形県)
実施日	2014 年 7 月 26 日[土]～7 月 29 日[火]　3 泊 4 日　交通：公共機関利用/タクシー/避難小屋自炊泊
天候/ ﾚﾍﾞﾙ/参加人員	天候:7/26:晴時々曇、7/27:雨後曇、7/28:晴時々曇、7/29:晴時々曇 レベル:★★★★☆(相当健脚向き)　参加者:申込 11 名/実施 11 名(男性 7 名／女性 4 名)
パーティスタッフ	CL/計画/:、SL/時間記録:、会計:、救護:、食当:、写真:, スタッフ名削除
参加メンバ	【縦走2日目_大日岳ピストン踏破隊】 男性 4/女性 3 名 参加者氏名削除 【縦走2日目_お花畑しっかり鑑賞隊】男性 3 名/女性 1 名
費用 **42,300 円/人** TTC カンパ金: **990円** (往路:大宮まで、復路:東京都区内以降の交通費は各自払い)	〔内訳〕往路公共交通費(大宮～喜多方):@7,700(大宮～郡山間:６名分回数券利用、新幹線指定料金含む)*11 名=¥84,700、タクシー代(喜多方～川入):@7,000*2 台=¥14,000、タクシー代(飯豊山荘～坂町):@23,020(ｼﾞｬﾝﾎﾞ)+@18,790(普通)=¥41,810、復路公共交通費(坂町～新潟～大宮～新宿):@11,670(新幹線指定席料金含む)*11 名=¥128,370、宿泊代 民宿高見台:｛@7,000+@500(弁当代)｝*11 名=¥82,500、切合小屋:@7,200*11 名=¥79,200、梅花皮小屋:@1,500*11 名=¥16,500、入湯料(飯豊山荘):@500*11 名=¥5,500、共通費(食料,飲み物,ｶﾞｽｶｰﾄﾘｯｼﾞ etc.):¥10,730、通信費:¥1,000、カンパ金:¥990　**合計:¥465,300**

歩行／行動時間

7/28 は大日岳隊をベースに記述	7/27[日]			7/28[月]			7/29[火]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	6:10	－	－	11:40	－	－	7:30	－	－
計画	5:55	1:00	7:10	10:50	2:50	13:40	5:30	0:30	6:00
今回実績	6:21	1:56	8:17	8:25	2:13	10:58	5:47	1:18	7:05
過去実績※1	5:35	－	－	9:47	－	－	5:30	－	－

※1:2000 年 8 月および 2009 年 7-8 月に実施された TTC 主催山行実績より算定

歩行時間比率	7/27[日]	7/28[月]	7/29[火]	3 日間平均
今回実績/計画	107%	78%　※2	105%	92%
今回実績/過去実績	114%	86%　※2	105%	98%
今回実績/ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	103%	72%	77%	81%

※2:縦走２日目の大日岳ピストン踏破隊は、かなり速いスピードで歩いたことが分かる

実行コースタイム記録

7/26[土]

小田急線　湘南新宿ﾗｲﾝ　新幹線　磐越西線　磐越西線　タクシー

本厚木駅=====新宿駅=====大宮駅======郡山駅=====会津若松駅=====喜多方駅=====川入(民宿　高見台)

9:42　10:31-44　11:16-26　12:18-43　13:54-14:33　14:49　16:00 頃

7/27[日]

1:59　0:40　0:11　0:42

民宿　高見台====栗の沢登山口----(小休止)----横峰小屋跡----水場　峰秀水----地蔵山分岐----(小休止)----

3:30(起床)-4:50　5:08-20　(19')　7:38-47　8:27-34　8:45　(5')

0:42　1:10　0:38　0:19

----剣ヶ峰----(小休止)----三国岳避難小屋----種蒔山(脇)----切合避難小屋----切合小屋(一旦出発後、強風のため引返す)

9:32　(15')　10:29-11:15　12:25-30　13:08-18　13:37

7/28[月]

0:32　0:12　0:49　0:04　0:15　0:20

切合小屋----(小休止)----草履塚----姥権現----(小休止)----水場分岐----本山避難小屋----飯豊本山----

3:30(起床)-4:55　(3')　5:30　5:42　(5')　6:36　6:40-50　7:05-15

0:51　1:09　1:09　0:39　0:46

----駒形山----御西避難小屋----(小休止)----大日岳----(小休止)----御西小屋----(小休止)----天狗の庭----

7:35　8:26-45　(5')　9:59-10:04　(5')　11:13-55　(3')　12:37

1:16　0:23　0:25

----御手洗ノ池----(小休止)----烏帽子岳----梅花皮(かいらぎ)岳----梅花皮避難小屋

13:23　(11')　14:50-15:05　15:28　15:53

7/29[火]

0:28　0:52　0:03　0:17　0:07　0:37　0:43

梅花皮小屋----北股岳----門内岳----門内避難小屋----胎内山----扇の地紙----(小休止)----梶川峰----(小休止)---

3:00(起床)-5:00　5:28-36　6:28-30　6:33-43　7:00　7:07　(10')　7:53　(4')

0:43　0:27　1:31　〔昼食・入浴〕ﾀｸｼｰ　羽越線　新幹線　埼京線　小田急線

五郎清水---滝見場分岐---(小休止)---湯沢峰---(小休止)---飯豊山荘===坂町駅===新潟駅===大宮駅====新宿駅==本厚木

8:40-57　9:40　(7')　10:14-19　(15')　12:05-14:30　15:25-15:55　16:31-45　18:34-18:50　19:20-19:38　20:34

今年の梅雨明けはほぼ平年並みで、関東・甲信越地方は出発の4日前に明けたが、肝心の東北地方(南部)の梅雨明け宣言が曖昧で、日程全体を通して曇りがちの予報の中での出発となった。飯豊連峰の縦走に 11 名のメンバで臨むことになり、いずれも事前トレーニングに余念のない健脚の方々であり、心強い気持でスタートした。

7/26[土]:晴時々曇 初日は登山口麓にある民宿までの移動であり、重い荷物も全く気にならないルンルン気分である。予報より良い天候に恵まれ、現地に着くと暑さが厳しく関東以上の猛暑に見舞われた。「急に暑くなった。こんなに暑いのはめったにない。」とのことで、思わぬ歓迎(?)を受けてしまったが、翌日の予報に傘マークが見えることから、明日以降に取っておきたい気分であった。先般の台風10号の影響で磐越西線の一部が不通となっており、また民宿がある川入までの道路が何箇所か崩落して車が通れないとのことで、一駅手前で降りてタクシーで崩落地まで送ってもらったが、予約時の料金をそのまま据え置いていただいたタクシー会社、および崩落地の仮設道路を歩いて渡ると送迎車とトビッキリの笑顔で迎えてくれた民宿の親父さんによって、いきなり東北の優しい人情に触れた気がして、とても心温まる気持ちになった。

川入にある何軒かの民宿もご多分に漏れず高齢化が進んでいて、我々がお世話になる民宿以外は今回の崩落を機に撤退されたそうで、「自分たちが引き揚げたら、飯豊連峰に登りたい人達が行けなくなってしまう…との思いで頑張っている。」との老夫婦の頑張りに感謝の念で一杯になった。このことは今回の縦走の中で出会うことになる人情味あふれる方々との出会いの序章に過ぎなかったことを、後で知ることになる。イワナや山菜料理に舌鼓を打ち、タップリ持ち込んだ日本酒や焼酎を冷たい湧き水で冷やしていただきながら、明日からの健闘を誓い合って早々に眠りに就いた。

7/27[日] 縦走1日目:雨後曇 縦走初日および2日目はかなりの長丁場であり、はやる気持ちからか3時半頃には起き出してきてパッキング等の準備を進めていると、「朝食は5時頃から」と言われていたが、4時半前には準備が整い美味しい朝食をいただくことができた。一面の曇り空で出かける頃には雨がパラついたので、レインウェアのズボンやスパッツを身に着けた。運転手は親父さんしかいないので、荷物運搬用軽トラックの運転を自分がかって出て、栗の沢登山口まで行き、ウォーミングアップ後、計画に対し15分遅れでスタートした。

充分に温まっていない状態でのいきなりの急登は身体に堪える。地蔵山から三国岳辺りまでは我慢して一歩々々ゆっくりと進んで行く。飯豊連峰のお花畑は明日以降のお楽しみであり、本日はこのいきなりの急登とその先にある剣ヶ峰前後の岩稜帯登攀がハイライトである。雨が降ってきて、とにかく蒸し暑い。豊富に溢れる峰秀水の冷たい水が喉を潤してくれると共に、元気を与えてくれた。場所によって突風が吹き荒れている所もあったが、岩稜帯通過時には雨はほとんど上がり、強い風もなかったのは幸いであった。三国岳避難小屋に到着したのは10時半頃であったが、早朝出発であったためお腹が空いてきて、民宿で準備いただいた美味しいおにぎりを頬張ったり、小屋で提供してくれる熱々のカップ麺を頂いたりして(注文をしてから必要量の湯を沸かし、割り箸付きで提供してくれるチャルメラ味噌ラーメンには、管理人さんの温かい気持も注がれていて、ここで食べると本当に美味しく、これで¥400 なら充分に価値あり)、ここまでの疲れを吹き飛ばした。

切合避難小屋には13時過ぎに到着したが、既に昼食は済ませたので、計画に対し20分遅れ程度であった。本山避難小屋方面から来た人の情報によると、この先は暴風が吹き荒れて歩くのもままならないとのことで、ややためらいもあったが、翌日の行程とのバランスを考慮して本山小屋泊を計画したものであり、夕食の予約も入れてあったことから、何とか頑張ることで出発した。ところが小屋を出ると直ぐに強い風に吹きさらされ、7～8分も歩いたところで、男性でも足を取られてふらつくほどの暴風となり、この先に御秘所の鎖場を通過しなければならないことを考慮に入れて、SL と相談して切合小屋に戻ることを決断した。こういう時に少人数であれば如何ようにも対応できるが、11名の大人数がいきなり飛び込んで寝るスペースは確保できるか？突発対応の用意ができていない夕食をどうするか？予約してあった本山小屋へのキャンセル連絡をどうするか？等々が頭を巡った。管理人の親父さんにすがる思いで相談すると、これらの心配事が一瞬にして杞憂と化した。 切合小屋は飯豊連峰にある最も大きな避難小屋とかで、「泊まりも食事(朝夕食)も大丈夫。本山小屋には後でこちらから連絡を入れておくよ！」と人懐っこい笑顔で応対していただいた時には、ホッとすると共に心が洗われる気持ちになった。通された2階の部屋は充分なスペースがあり、夕食の手作りカレーライスはお替り自由とのことで、充分に満たされた。夕食後、持ち込んだお酒を飲みながら一息ついたところで、縦走2日目の再計画について皆で話し合った。多少強行軍となっても飯豊連峰最高峰の大日岳に行きたいチーム(大日岳ピストン踏破隊、隊長:ST)と飯豊の景色やお花畑をしっかり鑑賞したいチーム(お花畑しっかり鑑賞隊、隊長:SK)に分かれて行動することで話が落ち着いた。

7/28[月] 縦走2日目:晴時々曇 昨日の雨模様のドンヨリとした雲がウソのように晴天に恵まれ、爽やかな風が吹いている。これまたご飯と味噌汁がお替り自由な朝食をいただき、中には親父さんの薦めでお替りしたご飯をおむすびにしてサービスの味付け海苔までいただく方がいたりして、最後まで心温まる応対で、元気一杯の気持ちで出発することができた。

この時まで、「できれば大日岳に行きたいけど、ついていけるかどうか心配」と迷っている方がいたが、先行する大日岳隊に同行して、無理な場合には留まっていればお花畑隊と合流できることから、大日岳隊:8名でスタートしたが、暫らくして1名がお花畑隊に合流となって、結局7名と4名のチームで行動することになった。縦走2日目の以下の内容については、大日岳隊を主体に記述する。お花畑隊については、後述の参加メンバからのコメントを参照されたい。

本山小屋手前(南側)の急登を登りきると基本的に尾根道となるが、 前日が切合小屋止まりとなったため長丁場で『歩行距離:約 17km』となることと、結構アップダウンがあって累積標高差は『登り:1200m、下り:1100m』となり、重い荷物を背負ってかなりハードになることは間違いない。気持ちを引き締めて一歩々々確実に歩を進めて行く。空の青色と飯豊連峰の山

並みの緑色と谷筋に広がる雪渓の白色が見事なコントラストを見せており、何故か登山道の近くを重点に咲き　　（3/4）乱れているように思われる色とりどりの花々が心を癒してくれる。大日岳に向かう途中で群生していた飯豊リンドウは可憐な星形の花で、赤ん坊の手はもみじに形容されるが、この固有種のリンドウも赤ん坊の手のように例えることができるような気がした。飯豊連峰で出会った花々については花博士の HM さんに記述（後述）していただいたので参照いただきたい。
　ガスに覆われて展望のなかった大日岳をピストンして戻ってくると、御西避難小屋でお花畑隊が出迎えてくれた。「大日岳隊は小休止のみでここまで来たので、昼食も兼ねて30分ほど休憩してから後を追う」ことを伝え、小屋前で合同写真を撮ってお別れしたが、梅花皮避難小屋手前までには追いつき、無事一緒に到着することができた。梅花皮小屋は梅花皮岳と北俣岳の間の、大きな空が広がる絶好の場所(コル)にある。夜中に起き出して満天の星空と本当に久ぶりに見た天の川を堪能することができ、とても得した気分になった。

7/29[火]　縦走３日目：晴時々曇　最終日も好天に恵まれ、真っ赤に染まった日の出を拝み、幸先良いスタートを切ることができた。北俣岳、門内岳を登るとしばらく尾根道が続き、その後急峻な下りとなる。ここまで2日間のロングコースを歩いてきた身体には間違いなく疲労が蓄積しているが、特に女性陣はすこぶる元気である。梶川尾根は、岩稜帯はほとんどないものの、３点確保で降りなければならない大きな落差が随所にあって、足裏や膝あるいは股関節に衝撃が伝わってくる。下山口まであと1時間弱の計画である湯沢峰まで降りてきた辺りで、足取りが急激に進まなくなった男性が2名現れた。安全に支障をきたすようなことはなかったが、荷物の軽減化措置を取りながら、ゆっくり１時間半かけて下山し、飯豊山荘に到着した。　復路に予定していた列車時刻では入浴および食事の時間を充分に確保できない状況であり、１便遅らせて十二分な時間を確保して、山荘にてゆったりとした時間を過ごすことができた。タクシーの有効活用はもとより、代行バス便や代替列車便の時刻等について、懇切丁寧に調べていただいたタクシー会社の対応には頭の下がる思いであり、感謝の念で一杯であった。新潟駅経由で新宿駅まで来たところで解散とし、神奈川まで順調に戻ってくることができた。
　今回の縦走を通して、僅か４日間とはいえ福島、新潟、山形の人情味あふれる多くの方々と触れ合うことができた。“郷に入っては郷に従え”の言葉もある通り、まずは現地の言葉に慣れることが肝要と思われるが、たった一文字変えるだけで結構現地の言葉らしく聞こえる法則に気がついた。TTC　にもこの辺りの出身の方が何名かおられるので、「そんなことはない！」とお叱りを受けそうだが、そこはサラリと受け流していただく前提で、紹介させていただく。その法則とは、「チ音をツ音に変える」だけでよいのである。具体的に耳にした事例をいくつか列挙すると、『エツゴ(越後)』、『ツット(チョット)待って』、『あなたタツ(達)』、『すぐツカく(近く)』…如何でしょうか。これだけで 70%位は現地の言葉らしく聞こえませんか？

　飯豊連峰縦走を通して、また1つ思い出深き山行を経験することができて、サポートいただいた皆さま、同行いただいた皆さま、山行を通してお遭いした皆さまに感謝の気持ちで一杯である。

【飯豊連峰で出会った花々：花博士　HM　さんによる記述】　飯豊山行では、今までに見たことがない花を見ることができた。初めはミヤマクルマバナ、山行の道中一番多く見られたピンク色の美しい花で特に、初日の雨の中、苦しい息の私たちを励ましてくれた。次は、ET　さんが「今回は絶対に見たいと思って参加した。」と　大きな期待をされていた飯豊リンドウだが、御西小屋までの道では見ることができなかった。同じ紫色のイワギキョウを一瞬それと思い込みそうになったが、大日岳に向かって下りたところから目にすることができるようになり、梅花皮小屋までの道や下山道でも見ることができた。星の形に開いたその花びらは可憐で、心に沁みる気高いブルーだった。他にも、キンポウゲやチングルマ、ニッコウキスゲなどの群生に出会い、歓声が上がる場面もあった。咲き乱れる花々の背景に飯豊の雪渓がそびえたち、その雄大さに感動した。クルマユリの鮮やかな朱色、ヒメサユリの濃いピンク色、ヨツバシオガマの濃い紫色や薄い紫色、イワカガミ、ハクサンフウロ、ショウジョウバカマ、ハクサンコザクラのそれぞれに微妙な違いを見せるピンク色、マイヅルソウ、ハクサンイチゲ、バイケイソウ、ウスユキソウ、ネバリノギランの白、アオノツガザクラ、ウサギギク、タイツリオウギの濃い黄色や薄黄色など、色とりどりに咲き誇る花々は、飯豊の景色と一体になって私たちを楽しませてくれた。

【参加メンバからのコメント】
☆KT　さん　参加者の皆さま大変お世話になりました。私は花の事は何一つ分かりませんが(下山をすると忘れてしまいます)、そんな私にも飯豊リンドウだけは何故か記憶にあります。あの紫の花の中心にお星さまのように秘めやかに白く咲いた花は大きなお土産になりました。またこの時期としてはあまりに見事な雪渓を見た時の驚きも忘れられない記憶として残っています。縦走は辛いことも多いけど終わるとまたやりたいな～と思います。今度は荷を軽くして・・・。
☆ET　さん　初日は，生憎の天候で長時間の雨中行軍を余儀なくされました。難関の剣ケ峰をメンバ−全員の高い集中力とチームワークで乗り切ったものの切合小屋を過ぎてからは、予報通りの風速 15m に近い風雨に晒されましたが CL の的確な判断により、切合小屋へ退却し、難無くリスクを回避しました。「トムラウシ遭難」と同じ状況で低体温症の危険が迫っていた中、素早く判断、対処したのは、日頃、安全登山を第一に活動している TTC の実践力を示した好例と言えるでしょう。
お蔭様で2日目以降、飯豊連峰の懐の深い雄大な展望を楽しみ、縦走の醍醐味を存分に楽しむ事ができました。念願の飯豊リンドウの可憐な姿にもたくさん出会う事ができ、終始、和気藹藹と楽しく過ごさせていただいたメンバー全員に感謝・感謝です。
☆KS　さん　飯豊山に登った人から良い所だと聞いていましたが、正にその通りでした。2000m　の峰々が幾重にも繋がった中を高山植物の花々を楽しみながら歩くことができました。膝に不安があった為、大日岳への挑戦はできませんでしたが、それでも充分に満足できる縦走でした。

☆KE さん　飯豊連峰縦走では覆いかぶさる様な残雪の白と緑の山並みのコントラストの雄大な景色を縦走路で　（4/4）目一杯楽しませてもらいました。又 高貴な紫色の飯豊リンドウを見つけた時の喜び、今を盛りに花々が咲き乱れて歓声があがる山行でした。参加の皆さんと楽しい時間を共有し、これからも忘れられない思い出の飯豊山山行になると思います。

☆TS さん　切合小屋を5分程過ぎたあたりから、強風で、歩行困難になり、予定の本山小屋をキャンセルして、切合小屋へ宿泊することになりました。朝から雨でズブズブになり、体も冷えていたので、小屋へ入ったときは、ほっとしました。避難小屋の管理人の方の一言が、私にはとても心に沁みました。早く背中のザック下ろして、身体を楽にしなさいと、暖かい言葉でした。夕食のカレーも鍋で作ったものでとても美味しかった。飯豊の山は沢山の雪渓とキスゲやチングルマ、笹ゆり、星型に咲く飯豊リンドウなど、花も可憐で、長い歩行で疲れましたが、癒されました。

☆SK さん　【飯が豊か】民宿、山小屋でのメシのサービスには恐縮した。量・質ともに満足であるが、それ以上に人々の心の豊かさ、温かさに感動した。ともすれば時間や回数、量や値段などの数値評価重視に陥りやすいサラリーマン社会で、ヒューマンタッチの素晴らしさ、推し量ることのできない良い心に出会えて感銘した。

【花を見たい】大日岳への「特攻隊」に比べ、わずか４人の「花見隊」は、ゆっくりと高山植物の鑑賞に明け暮れた。特に御西小屋手前数百メートルの登山道わきに咲き誇る小さな花々は、青紫・黄色・白系が多く、その種類と量に圧倒されっ放しだった。希少稀なイイデリンドウも何度か確認することができた。

☆HM さん　今回、食当を担当した私にとって、KY さんの提供してくださった野菜に新鮮な驚きを覚えた。私も、山行では毎回調理した野菜を持参していたのだが、KY さんは山行二日目と三日目に、持参した重い生野菜を調理して皆にふるまってくれたのだ。特に、丹精されたオクラをゆでて、だし醤油とカツオブシでいただいた時のその美味しさは格別だった。「そうか、生のまま持って来れば三日目でも野菜を食べることができるのだ。」と新たな発見をした思いだった。

☆YO さん　初めての東北の山々は奥深い山容の連なりが、歩けど歩けど果てのないゴールを目指しているような錯覚をさせるのに充分なほど、私には巨大に思えた。見渡す限りの視界の中に万年雪になるであろう大雪渓が、風景が変わっているはずなのに飽きることなく現れてくる。その氷の上を一歩一歩踏み締めながら進むと、まるでヒマラヤの氷河の上を歩いているように、その白い河の流れが遥か彼方まで続いていた。咲き誇る花の多様さにも驚いた。なぜか登山道の両側に咲いていることが多く、遠方からやって来た我々に何とか見てほしいという、可憐な花たちの思いが伝わってきた。やはりここは「北」なんだと感じたのは、久し振りに北海道の花たちに出会えたことだ。その中でもひときわ目立ったのが、かわいいエゾコザクラの群生だった。いやここではハクサンコザクラというのかもしれない。自然の力は人知を超える。あの立っていられないほどの暴風のなかを進むのは無謀でしかない。リーダーの的確な判断による名誉ある撤退は、思わぬおいしい夕食と人間味溢れる管理人に出会い、心を癒された。遠くに今朝出てきた梅花皮小屋が小さく見えた。歩いてきた稜線が、確かにここまで続いている。この辺り一面は草原地帯を思わせる風景だ。ここで昼寝でもしたらどんなに幸せだろう。突然、その小屋のほうからヘリコプターの音が微かに聞こえ、遭難者の救助を行っていることを伺わせた。あの急峻な雪渓のなかで滑落したのだろうか。大自然の中を歩いている。前を見ても後ろを見ても我々しかいない。これが東北の山なのだろう。

☆KY さん　天候の変化は、今まで経験したことのないようなめまぐるしいものでした。どうしてこんなに出るかと思うくらい沢山汗をかき、風が吹くとウインドブレーカーを着ていても震え、日が差すと半袖でも暑くなり、陰ると上着が欲しくなるという具合でした。7月も終わりに近かったためか、花の量は少なかったように感じましたが飯豊の景色は雄大で、雪渓と山の深緑はここならではのものと、再度感激しました。

☆SM さん　アップダウンをしながらはるか遠くまで続く稜線を歩く飯豊山山行は、私にとって初めての本格的な登山経験でした。この感動は完璧な準備をしていただいた各役割の皆さまのお蔭です。また、山行中も随所で諸先輩のお世話になり、お礼の言葉もありません。山の楽しみ方や、色々な場面での臨機応変さの大切さも勉強いたしました。また何といっても下山後の温泉＆ビールは締めくくりとしては必須ですね！次回のビッグ山行「鷲羽・水晶岳」を待ちわびております。

☆CL 反省コメント　●本山小屋を目指した縦走初日に、ほぼ計画に沿って順調に推移して切合小屋に到着し、休憩後出発して7～8分も歩くと暴風のため耐風姿勢を取らないと飛ばされそうな状態となった。既に森林限界を越えており、この先には風を遮るものが少なく、また御秘所の鎖場があることも考慮に入れて、SL と相談して切合小屋に戻ることを決断するのに迷いはなかった。しかし、更にもっと進んだ所でこの状態に遭遇していたとしたら、引返す決断をするのは格段に難しくなることが想像され、今後に活かすことができる１つの貴重な経験をすることができたと思っている。

●縦走初日を切合小屋止まりとしたため、縦走2日目はロングコースとなった。大日岳へのピストンは有志(7名)のみとしたが、梅花皮小屋到着が遅くならないようにとの思いもあって、メンバの様子を見ながら全体的にかなり早足で歩を進めた。梅花皮小屋手前のピーク烏帽子岳に着いたときには多くのメンバがかなり疲労困憊気味で、ブーイングの声も聞かれた。もう少し配慮が必要だったように思う。

●最終日は、北俣岳、門内岳登頂後しばらく続く尾根道を過ぎると、かなり急峻な下りの連続となるが、湯沢峰を過ぎた頃から、重い荷物を背負っての3日間の疲れがドッと出たのか、急激に歩行スピードが落ちるメンバが現れた。荷物の軽量化等の対応を取りながら、計画に対し約1時間遅れで何とか下山することができた。公共交通機関利用で、このような奥地では便数も少なく、また先般の台風10号の影響で鉄道が寸断されていることもあって、代替の便を探すのにかなり苦労した。エスケープルートの検討と同様に、このようなケースも想定して代替便の準備をしていれば、もっと楽に判断や決断をすることができたと反省させられた。これも今後に活かしたい。

— 以上 —